



(1)

# 文献センター通信

第9号  
2008年12月31日  
一部100円

アナキズム文献センターは初めての総会を東京・新宿で開催いたしました。

12月6日(土)。バックグラウンドミュージックには古い革命歌のテープが流れ、パソコンなどのセッティング、机の移動など多少の慌ただしさも感じられます。

定刻より少し遅れて、午後2時7分。2006年7月、第2回富士宮で採択された規約に基づく第1回の総会であることを宣言し、総会が始まりました。

まず、経過報告。すでに会員ならびに協力者には総会案内とともに、活動報告のレジュメが送られていた。

## 第1回総会を開きました

05年7月に第3次文献センターの活動が開始したのだが、NPO法人についての議論が最初にあった。この議論は半年後に中止、06年に任意団体として正式に発足したのが現文献センターである。

発足後、富士宮で文献を整理、データ入力を行うため、山田氏が文献センター近くに移住し活動、現在では、蔵書にナンバーを振り、データベースとの照合が可能になりつつある。

富士宮の文献センターの現状と、蔵書の収納先についての説明

主な内容

第1回総会を開きました……………1

デジタル化について……………2

資料整理からデータベースへ……………3

会計報告・予算書……………4

文献センター自己紹介(8)……………5

フジモト文庫・目録……………6

運営委員会議事録……………7

8 7 6 5 4 2 1



もされた。寄贈文献で、整理・データ化できていないものもあり、順次、整理する。まずは山鹿文庫のデータ入力開始の予定である。

そのほか、個別活動の説明がなされた。キネマ・フェスタ・アナーキーに参加し、その収益をスイス

のCIRAにカンパとして送った、『希望と欺瞞の間に』(DVD)に字幕を入れたこと、などである。

次に2年分の会計報告と、次年の予算についても報告がなされた(予算は後に運営委員会で修正)。

事業計画では、HPを恒常的に更新していくこと、アナキズム講座(仮称)のようなもので多くの人にアナキズムと文献センターの存在をアピールすること、寄贈書目録(平井文庫、佐藤・藤本文庫)を刊行することが挙げられた。

デジタル化に関しては、プロジェクトを使い説明が行われた(関連記事が次頁にあります)。

◇

休憩を挟み、後半は自由な話し合いとし、4時に閉会しました。そののち、懇親会を行いました。

その場で、龍武一郎氏の八十のお祝いも行いました(6頁に写真)。

酒も入り賑やかな会となりました。(記録・佐藤)

**デジタル部会  
—これまで、そしてこれから—**

文献センター・デジタル部会の活動期間も、第三次文献センターと歩調を合わせ、ほぼ三年になるうとしています。この間に行ってきた活動内容を報告します。

また、当部会の今後の活動予定や、「デジタル時代」が文献センターに突きつけている現在の問題についても提起します。

●デジタル部会の現在までの成果

デジタル部会の活動は次の三点に絞られます。

- ① 写真等をデジタル化してファイルとすること
- ② 映像をデジタル化してファイルとすること
- ③ 音声をデジタル化してファイルとすること

①の写真等の対象は、写真やアルバム、手帳等、書籍ではないものが中心です。これらをスキャナーでスキャンしたり、デジタルカメラで撮影したりしています。こうして、デジタル化したものの

一部は、アナキズムカレンダーの作成などに使用しました。

②の映像の対象は、フィルムやビデオテープです。手元にある多くのフィルムやビデオテープは、残念ながら、すでに劣化が進行しているものもあり、映像がぼけていたりします。

これ以上の劣化を防ぐために、画面をキャプチャしてデジタル化し、それをファイルとして保存するだけでなく、DVDなどのメディアにも保存して貸し出しできるように準備しています。現在までに作業が終わっている

ものの一部を列挙しておきます。

- 『スペインの短い夏』(フィルム)
- 『希望と欺瞞の間に』(フィルム)
- 『ウクライナの農民アナキスト  
ネストル・マフノ』(ビデオ)
- 『ルイズ その絆は、』(ビデオ)
- 『アフガンで爆死した女性写真家』  
(ビデオ)
- 『バリケードのコロンビア大学／  
黒豹党』(ビデオ) その他

③の音声デジタル化の対象は、オーブンテープやカセットテープに録音された音源です。それをファイルとして保存するだけでなく、再生が簡単に行なえるようにCDとしても作成しています。現在までに終わっているもの

- 一部を列挙しておきます。
  - 『大地の慟哭 9・18鼎談』
  - 『大杉栄ら虐殺七十周年墓前祭献  
歌』
  - 『革命のうた』
  - 『その他』
- デジタル部会の今後の活動予定  
デジタル部会の今後の活動予定

としては、前記作業の継続に加え、劣化が始まっている蔵書を優先的にデジタル化してファイルへ保存することがあります。

また、デジタル化した資料も大きな意味での文献ととらえ、それらを含んだ文献データベースの充実を図っていきます。

●C I R A I J A P A N A ホームページ

C I R A I J A P A N A ホームページは、現在、旧ホームページから移行中です。旧ホームページ



図1 旧ホームページ

は前頁図のようにデザインもよく、文献センターとしては画期的なものでした。

しかしながら、一般的なホームページのように、責任者がページを更新するという制作スタイルを取ったため、なかなか更新が行なえなかったのが現実です。

そこで、新ホームページでは、各部署の担当者などが、それぞれの担当部署に載せる記事を自分で更新するという方法を取ることにしました。幸い、その目的に沿ったホームページ作成用のプログラムもオープンソースであり、現在、それを使って新ホームページを作成しています。

本家CIRAも右下の図のようなホームページを公開しています(<http://www.cira.ch>)。最初に表示される言語はフランス語ですが、英語、イタリア語に切り替えて表示することもできます。

画面左側には、メニューが表示



図2 本家CIRAホームページ

されています。連絡先やニュース、ライブラリーについてや検索方法、会報などのページを開くことができます。

現在の、そして、これからのCIRA-JAPANAホームページは、本家ホームページを参考にしつつ、機能を充実させたいと考えています。その一つが文献データベースの公開です。

本家ホームページでも文献データベースが公開されており、タイトルや著者名、出版社名、副題等

の複数のカテゴリーから、データベースを検索できるようになっています。同様の機能を備えた検索サービスを実現させる予定です。

同じく、データベースの機能としてアナキズム運動史年表の作成も予定しています。現在、公開中の年表には、1987年までのデータしか載っていません。これを充実させるべく、年表部会がデータの収集・整理に努力しています。

### ● デジタルの世界と情報・文献

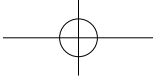
パーソナルコンピュータがパソコンと呼ばれるようになり特別な存在でなくなつたのは、二十世紀も終わりに近い95年頃からでしょう。インターネット回線使用料も手の届く価格となり、インターネットエクスペローラなどウェブブラウザを使ってインターネットを見ることも普通になりました。

同時にホームページをインターネット上に公開する企業や団体、

個人も現われました。さらに、電子メールを使うことが多くなり、同時に葉書や便せんを使つての通信が少なくなりました。この傾向は、二十一世紀に入るとさらに顕著になりました。

文献センターは過去や現在のアナキズム関連の書籍や情報紙誌等を集め、保存・整理することを第一義の目的としています。しかし、今や、世界での情報発信の多くは、紙媒体だけではなくインターネット回線を使つてのデジタル発信が主体になりつつあります。情報発信の方法が変わりつつある現在、その情報を収集する方法も変わらざるを得ません。インターネット上の情報は固定ではなく、日々変化します。その情報を的確に捕らえて蓄積しなければ、私たちの手元から多くの情報が抜け落ちてしまいます。今、インターネット上の情報をどう残すかが問われているのです。

(伊藤)



### 資料整理から データベース構築へ

文献センターを久々に訪れたという川口秀彦さんが「アナキズム文献センターの富士宮交流会に初めて参加した。人名事典編集委員会の合宿以来の、数年ぶりのセンター行きである。所蔵の図書・資料類の整理が格段に進んでいて感激した。だが実際の利用ということから考えれば、まだ道は遠い。折角の文献センターである。保存だけでなく、活用できるセンターになってほしい……」と『トスキナア』8号に書いている。少しづつ形を整えてきたセンターが傍目にも一目瞭然となったと思うと、嬉しい限りである。

12月の第1回総会までに、実は蔵書目録データベースのテスト版を公開しようとの目論見があった。それなりに準備はしたのであるが、入力データの統合に意外と

手間をとられ、とうとう間に合わなかった。どうやらデータの一本化だけでも年を越しそうである。

蔵書データの公開は画期的な進展となる。それはセンターが資料倉庫から脱して図書館へと変身することを意味している。本や雑誌が積み重ねられ、新聞・パンフを詰め込んだダンボールが所狭しと置かれていた倉庫状態から、利用できるセンターへと踏み出すことを意味しているからである。

その端緒を作ったのはやはり山田正崇さんで、2006年6月から2年間、栃木から富士宮に移り住んで蔵書の整理とデータ化に取り組んだ成果である。単行本と小冊子を中心に約4000件のデータが入力され、それに呼応した合宿ではナンバリングとラベル貼りの仕事がなされたから、その分については現物資料とデータが一体としてまとめられ、書架に整然と並んでいる。この点では、山田さ

んの2年余にわたる努力に感謝、感謝であり、また受け入れ側として何かと配慮された龍さんにもお礼を言わなくてはならない。

◇

いま東京分室で取り組んでいるのは、それ以前に東京で入力したデータ3000件弱を整理しそこに合体させるための作業である。まず、入力したデータに重複が生じており、そのデータと現物との照合が必要になってくる。両データ入力にかなりの時間的空白があり、手順に若干の違いがあるので、これが予想以上に難行している。

これらの作業を終えて、入力済みデータが一本化されるのである。しかしその後にもまだハードルがあつて、これまで進めてきたデータの構造と、いま予定しているそれとの間にいくつかの変更項目がある。従つてそれを整合させなくてはならない。かつては印刷されたアナログ的記録媒体をのみ

考えていたが、急速に進んだデジタル化、記録媒体の多様化に対応しなければならぬという事情の故である。

こうした要請に応えるもの、しかも基礎づくりの段階であるから、完璧を期したい。そこをしっかりと作っておけば、あとはデータベースとしての運用と情報処理・作成をルーIALIZEDしてデータを追加していけばよいことになる。信頼性が高く、肌理の細かい情報提供を可能にするデータ内容、便利な検索機能……などと欲を言い出すときりはない。便利さの裏には多大な時間と労力、そして資金が求められる。

今朝の新聞には、大が小を呑み込んだはずの合併から3年をかけてようやく三菱UFJがコンピュータ・システムの統合を完了したと報じられていた。システム水準ではUFJの後塵を拝した三菱側に原因があつた。後者をもと

データ入力その他にもうひとつ山田さんの功績がある。作業の必要から生じたのであるが、センターの書庫からダブリ本を持ち出して、資料整理のスペースを生み出したことである。それこそ足の踏

進だけに期待は強い。

◇

センターのデータベースがどのような動き出すのか、門外漢の私にはイメージできないのだが、三十有余年前、数度にわたる夏のワークキャンプで、セミの声を背に汗水たらしてせつせと図書カード書きに励み、後に辛くないでそれらを火中に廃棄するという暗澹たる時期を過ごした身からすると、とにもかくにも大きな一歩前進だけに期待は強い。

に最大6000人の技術者と総投資額3300億円を投じた新システムですら、最先端であったUFJのシステムに比べるとまだ10年遅れていると酷評されているらしい。システム恐るべしである。

現在のところ、センターでの資料整理手順は次のようになっていく。未整理分は全てダンボールに収める。整理の済んだ(データ入力し、ナンバリングとラベル貼りの終わった)ものは本棚に並べ、ファイルに収める。これを可能にしたのが整理スペースの確保、持ち出しの論理であった。

み場なく雑然としていた倉庫状態から、床の見える書庫に変えたのは、集めては持ち込むという何とかネズミの習性に陥って持ち出すという発想を失っていたセンターにとつては、コペルニクスの転換であった。しかし、不幸にしてその代償は重く、富士宮のアパートの一室は持ち出したダンボールで埋められたばかりか、いまや那須のアパートまでカタツムリの如くに背負っていくことになったのは、どうにも申し訳ないことである。

(奥沢邦成)

### 会計報告

(2008年1月1日～2008年10月31日)

#### 【収入の部】

前年繰越金	175,074	
会費/物販	286,700	
カンパ	303,780	名古屋藤本氏より
合計	765,554	

#### 【支出の部】

センター維持費	50,000	富士宮の光熱費等
機材費	22,995	センター機材
カレンダー制作関連	28,850	09年版の印刷費
その他出金	420	振込手数料負担等
次年度繰越金	663,289	
合計	765,554	

※その他「センター通信」の印刷費・郵送費等の未計上分あり

上記の通り報告いたします。  
2008年10月31日

会計係/古屋淳二

### 2009年予算書

(2009年1月1日～2009年12月31日)

#### 【収入の部】

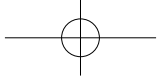
前年繰越金	600,000
会費/物販	400,000
カンパ	200,000
合計	1,200,000

#### 【支出の部】

センター維持費	220,000	富士宮の光熱費等 東京事務所費用
イベント等開催費	100,000	
センター通信発行費用	150,000	印刷、郵送費など
カレンダー制作関連	250,000	
その他出金	150,000	未払い金含む
次年度繰越金	330,000	
合計	1,200,000	

※予算書は、総会時のものを、12月運営委員会にて、修正したものです。





# 文献センター 自己紹介 8

五月の下旬、半年ぶりに羽熊直行がグループ数名でやってきた。今年に入ってから常連となった沼津の中村隆司、それに私が加わってセンターの今後が話され、夏のキャンプが計画された。七月一日から九日まで、ダンボール十余箱につめ込まれているミニ・コミ紙の整理を主眼として立案された。準備期間は短かったが、六月に入ってから中村隆司と私がその準備にとりかかり、向井孝の協力を得て実施された。

**キャンプ報告（七三年七月）**  
短い準備期間をしか持ちえなかったのと、情宣活動の不備に一抹の不安を覚えつつも、最低限普段の活動の延長線上にできれば良々と考えつつ七月のキャンプは

始まった。  
六月三〇日(土) 準備、打合わせ。  
夜、顧問の長谷川進さんにブルードンの話を聞く。

七月一日(日) 作業開始、昼間二名、夜間二名(夕、大阪のK君来)。この日はまず残っていた単行本のカード書き、原簿記入、ラベル貼りを済ませるべく、頑張る。この作業は比較的慣れた作業なので手順は早い。が、明日中に終わるか……。

七月二日(月) 昼間二名、夜間三名。夜羽熊氏来。昨日の仕事の続き。作業手順は慣れたものである。しかし、分類法でつまづく。むずかしい。若干の残りが出る。

七月三日(火) 三名。単行本の整理続行。本日は完了して、雑誌、ミニコミ、機関紙・誌に取りかかる。このキャンプの中心課題である。難物中の難物。静岡の小坂さんの整理方法を踏襲

する。まず、朝日ジャーナルのバック・ナンバー欠号調べ、五冊単位で整本できるものは整本する。六七年〜六九年はよく揃っている。続いて現代の眼、月刊キブツ……雑誌類は欠号が多いので、それを書き出し、ヒモでそれぞれまとめて一応の整理を終える。いよいよピラ、リーフの類の段ボール箱に取りかかる。  
(続く)



**古書りぶる・りべる移転**  
吉祥寺店を11月末で閉店し、神田に移転しました。住所 千代田区神田神保町1の42 村上ビル

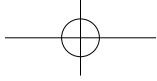


センター総会後の懇親会で、ケーキのろうそくを吹き消す龍さん

**アナキズム文献センター  
会員を募集!**  
二〇〇六年三月の京都集会、七月の第二回富士宮集会、〇八年一二月総会を経て、文献センターの活動の実質化を図るべく、当面は会員制のもとで活動・体制づくりを進めています。文献センターへの参加を広く呼びかけています。皆様の積極的な参加をお願いいたします。会費は年間一口一〇〇〇円としていますが、可能であれば複数口でお願いいたします。

## 藤本文庫・目録（第4回）

日本共産党批判	中野重治／神山茂夫（編著）	三一書房
昭和思想史における神山茂夫	天皇制とスターリニズム批判	津田道夫
		社会評論社
日本共産党戦後重要資料集 第一巻	神山茂夫（編著）	三一書房
日本共産党戦後重要資料集 第二巻	神山茂夫（編著）	三一書房
日本共産党戦後重要資料集 第三巻	神山茂夫（編著）	三一書房
恋愛論	高群逸枝	講談社
火の国の女の日記（上）	高群逸枝	講談社
女性の歴史（上）	高群逸枝	講談社
女性の歴史（下）	高群逸枝	講談社
獄窓から—真正版—	和田久太郎	黒色戦線社
大正自由人物話 望月桂とその周辺	小松隆二	岩波書店
詩人秋山清の孤独	岡田孝一	土曜美術社出版販売
山鹿泰治 人とその生涯 アナキズムとエスペラント	向井孝	青蛾房
ピラについて	向井孝小詩集	向井孝
向井孝の詩	向井孝	WRI - JAPAN 出版部
性とアナキズム	小川正夫評論集	ウリ - ジャパン出版部
明治・大正期自立的労働運動の足跡	印刷工組合を軸として	小川正夫遺稿集刊行会
		水沼辰夫
		JCA 出版
わが射程	吉田欣一詩集	吉田欣一
		吉田欣一詩集刊行委員会（編）
		幻野工房
わが年輪	詩と詩論	吉田欣一
吉田欣一詩集		吉田欣一
		小川町企画
近代学校	その起源と理想	遠藤斌
		コスモス社
アナキズムと天皇制		白井新平
		創樹社
評伝《堺利彦》 その人と思想	林尚男	三一書房
竹久夢二	秋山清	オリジン出版センター
		紀伊國屋書店
エェジャナイカ、花のゲリラ戦記		水田ふう／向井孝
		径書房
しのぶぐさ	伊藤ルイ追悼集	松下竜一（編）
		草の根の会
盲目の詩人 エロシェンコ	ア・ハリコウスキー	山本直人（訳）
		恒文社
農村青年社事件・資料集 I	農村青年社運動史・記録	農村青年社運動史刊行会
農村青年社事件・資料集 II	農村青年社運動史・記録	農村青年社運動史刊行会
農村青年社事件・資料集 III	農村青年社に関する評論、官庁・新聞社・その他資料	農村青年社運動史刊行会
		以上黒色戦線社
		（次回に続く）



# 運営委員会議事録 (抄)

釣り銭、カレンダー  
など」と担当者の  
確認をした。

## 【10月運営委員会議事録】

10月18日 (土)

### ■総会について

開始時間、終了時間とプログラム、担当を決定した。懇親会をセンター東京事務所内で行うことにした。

### ■Webサイトについて

旧ホームページの現行データの移行を早急に行う。

### ■カレンダー

Webサイトでも購入できるようにする

## 【11月運営委員会議事録】

11月15日 (土)

### ■総会について

当日スタッフの集合時間を決めた。当日の段取りの打ち合わせをする  
準備するもの(飲み物、文具、

### ■来年の事業計画

Webを更新し、目録を公開する。引き続きカレンダー(2010年版)の制作をする。アナキズム年表作成作業を継続する。アナキズム講座(仮称)の年2回開催を目指す(戦後美術、農村青年社関連など)。イベント(映画上映)の開催などでもできるだけ視野に入る。

### ■カレンダー

2009年版が完成したので各自宣伝すること。

## 【12月運営委員会議事録】

12月13日 (土)

### ■総会及び懇親会のまとめ

総会の意見ならびに運営委員の意見等を受けて、2009年予算書を変更する(別掲#6頁)。懇親会及び二次会での残金はカンパ扱

## 2009年版アナキズム カレンダーができました。

今回は、ポスターサイズ(A2判)です。

図版は、1954年9月16日に東京・東中野モナミで開催された「大杉の日」に関する資料を使用。芳名帳をカレンダーの背景として、カレンダーの裏面にはエスペランティスト山鹿泰治のアルバム(アナキズム文献センター所蔵)から、集合写真と参加申込者リストを掲載しています。芳名帳や参

### ■カレンダーについて

Webから購入できるようにする。2010年版カレンダーは7月くらいには作り終えていたい。  
■Webサイトについて  
早急にデザインのカスタマイズをして新しいサイトをオープンする。

加申込者リストには、懐かしいお名前、意外なお名前などが散見され、カレンダー以外でも楽しめるかと思えます。

一部500円(送料込み)。

会員の方には、既に発送しております。申し込みはお名前、住所、部数をご記入の上、Eメールでお送りください。またホームページ上からも購入できるほか、取扱店舗の情報なども掲載しています。

## アナキズム文献センター通信

第9号

発行/二〇〇八年十二月三十一日

発行所/アナキズム文献センター

編集/運営委員会

連絡先/東京都新宿区新宿

1の30の12 三月工房気付

郵便振替口座/

00850-3-30010

口座名 A文献センター

Eメール/

info@cira-japan.net

定価/一部一〇〇円

<http://www.cira-japan.net/>